

---

# 転生者のごとく！

カッシー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生者のごとく！

### 【Nコード】

N2436BA

### 【作者名】

カッシー

### 【あらすじ】

ある日、よく分からんが死んでしまった俺はテンプレな転生に恵まれず、なんか身体能力が、上がっただけで、何の世界か分からないまま転生。しかも数年後、駆け引き大好き親共借金を押しつけられ、黒の組織みたいな奴らに追われて、よく分からん内に関西弁の少女「愛沢咲夜」なる人物に建て替えられた俺の借金を返すために、よく分からないまま、愛沢咲夜の執事になる。って……よく分からないまま多くね？

ハヤテのごとく！の二次創作です。メタ発言多く、更新不定期です

が、よろしくお願いします!!

テンプレって実は運がいいのだと言う(前書き)

こんにちは、ええ、色々な小説の更新が止まっていて、更新すべき小説をこの一ヶ月更新しないで、この小説を書いたカッシーです。始めまして、またはこんにちは。

最初オリキャラしか出ません。うん。すみませんした!!(何故?)

## テンプレって実は運がいいのだと言う

最初に言わせてもらおう。俺はこう願った訳だよ

なんか死んでしまつて、あつ、殺しちゃったごめんなさい。てへぺろ。みたいな感じで神様のなのが出てきてそのお詫びに初期からチート性能を持つて転生して色々と騒いで、かつこよくフラグを立ててハッピーエンドで、終わらせる。そんな展開を俺は望んだ訳だよ。

だが、人生そう上手くは行かない。例え転生に成功したとて、なんか色々とこまったりするはずだよ。

うん。それが俺。転生に成功したけど、なんの世界かしらねえし、なによりチート能力も、持ってない。ただ、運動すれば伸びるらしい。

当たり前だけれどもね

そんな俺の話をするにはまず、神様みたいな人と会うところから話し始めなければ、長くなるが聞いてくれると嬉しい。

つてか、今ナレーションしてる俺、もう出番終わりだから。過去の俺にバトンを回してあげようじゃないか！！

だが、これだけは知ってほしい。

人生ってそう簡単に上手く行かないんだって

――

\*\*\*

どうしてでしょう？何故かさっきまで、公園で遊んでたはずが、レインボーな空間の中、立ってる。いやいやいや、なんだこの世界。僕、なんか悪いことしたっけ？

.....

いや、教師とかに消しゴム投げたり！そんな事はしたりしたけども！！別にそんなぐらいだよ！こんな世界にいきなり迷い込むなんてど

んだけ教師に消しゴム投げる事が悪い事なんだよ!!

注、こんな事をやる人は悪い人だよ!良い子の皆は真似しないようにネ!つてか僕は悪い子だからやってもいい(r y

そんな事を考えているといきなり眼鏡かけた人物が現れました……

え、なにこの罰ゲーム。こんな眼鏡外すと可愛いてきなギャップ萌えのキャラの人に舌抜き地獄とかやらされるんですか!

地獄は思った以上に怖い所だな

そんな事を思い身震いをする。ヤバイ近づいてきた……あー、このレインボーな地獄で俺は殺されるのか……お父様、お母様。さようなら。僕を育ててくれてありがとう。

「この度は「すいませんでした!!」……え?」

うん?ちよつと待て。今、なんかこの度はつて言わなかったか?そして俺。冷静に考える。大体こんな所に地獄があるのか?

「あゝすみません。ここつて、どこつすかね?」

「えーと、神様の家の多目的室ですが……」

「……」

あー、多目的室ですか。その前の神様やらなんやら云々はおいといつて……言わせてもらつと……

「どうなっちゃってんのこの世界!!!!!!」

公園を抜けた先は多目的室でした。どこどこでもドアだよ!!!!!!  
これじゃああのネコ型ロボットもなんでこんなに早くどこでもドア  
が……と言つて驚きの表情だよ!

きつと!!!!!!多分!!!!!!

「あ、申し遅れました。私、神様の秘書。天使です。よろしくお願  
いいたします」

天使つて……きつと作者がこの一回だけの登場だしべつに名前な  
んでどーでもよくなね?みたいなノリだったんだろっね

と、その前に

「えーと、どうして、僕はここにいるんですかね?トンネルの先は  
雪国という事はわかりますけど、公園の先がこんなレインボーな多  
目的室なんて。あり得ませんよ?」

多分人間で始めてなんだろう!嬉しくてなんか目からなにかが垂れ  
てきたよ

「ああ、詳しくは神様から聞いてくださいな」

そう言うお、なんか急に視界が暗くなって、すぐ、明るくなった。  
目の前にいたのは……

「ああ、お前か……部下のクソ野郎のせいで死んじゃった野郎は」





叫んだ瞬間怒鳴られた。怖い。やっぱりこの人怖い

「俺の部下がちっと仕事に失敗してな、運悪く、お前が死ぬ運命にあった」

「たった少しの失敗で？」

「ああ、大丈夫だ。精神的に死刑にしといたから」

「……………」

大丈夫じゃないだろ、という突っ込みを抑えて恐る恐る聞いてみた

「で、死因は？」

「聞きたいか？」

「……………」

つばを飲み込み、意を決して頷く。なんだ……………とてつもなく嫌な予感がする

「石でつまづき打ち所悪く……………直ぐに息を引き取った」

「……………」

聞くんじゃなかった

「それで、俺をどうする気なんですか？」

「いや、決まってるだろ？転生だよ」

「……え？マジで？」

ヤバイ、死んでよかったかもしれない

「大マジ」

この神様マジで拝むレベルだわ。感謝します。ありがとうございます。神社にもつと行けばよかった。現金な奴

「で、能力は？」

「は？なにいつてるんだ？なにに決まってるだろ」

「……へ？」

「なんでも貰えると思うな！狩れ！狩るんだよ！！」

「なにをだよ！！」

「ああ？」

「すみませんでした。調子乗りました」

うん。突っ込むのはやめよう。次は俺の命が危ない

「とにかく、身体能力は上げておこう、ゴムゴムのなんとかとか、死ぬ気でなんとかとか、その幻想をなんとかとかその類の能力がもらえると思ったら大間違い！人生そんな甘くないんだよ！！」

「ええー」

納得出来ない。

「で、どこに行くか「ランダム」……」

もういいや、突っ込むのめんどい

「じゃあ行つてらっしゃい。さつさと死ねよ」

「結局、ほとんど私出てないじゃないですか」

「はい。じゃあさようなら」

さつさと行こうこの人達、僕は相手に出来ない

そして、俺の視界は暗闇に包まれた

テンプレって実は運がいいのだと言う(後書き)

感想、アドバイス待ってます!!

困った時は相談した方がいい。これ常識（前書き）

関西弁が予想以上に難しい

困った時は相談した方がいい。これ常識

「ハアハアハア……」

気付けば公園に着いてた。額の汗を拭う、どうしてこうなった？

皆さんお久しぶり。只今13つまり中学一年生の乾　ハヤトです。  
ハヤトはまあ、ホントは隼人って書くんですけども何故かそうしな  
きや、いけない様な気がするからカタカタにしておこう

そんな俺がどうしてこんな汗だくだくで公園にいるかというと、追  
われているから

まあ命がけの鬼ごっこ。いわゆるリアル鬼ごっこって奴

うん！笑えないや（泣）

まあ、ことの成り行きはというと三十分前に遡る

\*\*\*

「金が……アレ？」

新年、一月一日、初詣から家に帰ってくるとなにもなかった。ただ一つの便箋を除き、

便箋には『ハヤト君へお年玉』と書かれてあった。

「おお、今年はいくら入ってるかな？」

それを見た途端、なにもないということ忘れて便箋を切った

ウチの親共は自由主義だ。ってか仕事ではなくパチンコ、競馬、麻雀、などなどをして金を稼いでる。無論、そんなもので稼いではないかと思っていたのだが、実際立派なほど稼いでいたので、その年の儲け金額によりお年玉、お小遣いなどなど、お金に関わるものはすべて変わるのだ。

それが結構スリルがあって俺は好きなのだ。

だが、それも今までだった。



「あれ？」

落ちて来たのは、紙と、落とし玉と貼ってあった玉だけだった

「え？なにこれ？」

くだらな！！！！

え？今年のお年玉なし！？どうしてくれんだよ！！

そう思い落胆しながら、紙を拾う。

「何だこれ？」

拾った紙にはこれこそ人生を左右するような事が普通に書いてあった。

『借用书 ¥84・608・500』

「…………え？」

一瞬目を疑った。ええと八千四百六十万八千五百円……

ええと…………横には『頼んだぞ、わが息子よ』

「…………え？」

紙の中にまた小さな手紙があった

読んでみると



つてか、なんですかねコレ！俺、あきらめて、普通に生きようかな  
と、思ってた矢先なんなんでしょうかコレ！

\*  
\*  
\*

「ふう………まいた」

つ………疲れた………やっぱりチート能力は欲しい。どんな平和な世界で  
もこんな世の中一つぐらい持ってもいいんじゃないのかな？

「ハアハアハア」

つてな訳で冒頭シーン

どうしよ、もう頼るとこない。考えてもみるよ。親が仕事してなければ、他の親が乾君には関わらない方がいいとかいうから昔から友達なんてほぼ、いなかったし。親戚なんて知らないし……

いっそ、この寒さだ。凍死してしまおうかな

「どないしてん？」

よく考えれば、これが俺の大きく運命を変えた一つだった。いや、もう運命の出会いとかそんなレベルだった。

「へ？」

不意に尋ねられ後ろを向くと小学生ぐらいのショートカットの少女が立っていた

「だから、どないしといねんって」

ああ、俺はついに小学生に心配されるようになったか……ハア……

「いや、なんでもないから、大丈夫」

「いや、絶対なんかあるやろ？ウチ暇だから相談のるで」

「いやいや、なんでもない」

「相談のるでって」

「いや、だからいって!」

「あ、いってと言っ事はなんかあるという事やる? な、乗らせてくれ。お願いします」

「え?」

なんでしょうかこの展開、相談乗らせてくださいってお願いさせられたのは初めてなんだけども

まあ、小学生だし……いいか

「わかった。相談するから。ジュース買うからちょっと待ってて」

「ホンマ!ならウチ、オレンジジュース頼みますわ」

「え?」

「ありがとな」

ああ、残り少ない全財産が……ああ

\*\*\*

「で、温かい飲み物じゃなくてよかったの？」

「別にいいんですよ。ありがとな。で、相談してくれるんちゃう？」

「ああ……実はな……」

で成り行きを説明をした。

「そんな事があったんか……」

「え？なにその反応」

「いや、こんな重い話で、どう反応していいか分からなくて……」

うん。やっぱ。中学生がこんな相談びつくりするよな

「正直お笑いの話かと」

「ないから!!」

「え?ないん?」

「いやいや、あんな深刻そうな顔してお笑いの話とかないだろ!!」

「いや、例えばなんで、いつもガキ使では松本が叩かれる数が多いんだろ……とか」

「ないから!!!!そんな深刻そうな顔してガキ使の事、考えないから!!!!」

「え、そうなん?」

「そうだわ!!!!」

夜の公園に俺のツッコミが炸裂する

「損したわ、損。お笑いの事かと思ってた」

「ねえよ!正月にしかもこんな場面なのに考えねえよ!!!!」

ああ、もう!相談して損したわ!!

「じゃ、かえ「行くあてないんやろ?」「……」もっともです」

このまま寝ると俺、凍え死ぬ。

「うち、泊まってく？」

「え？マジで？」

「マジや。うち、アンタの事気に入った」

その時、俺の瞳が光ったのは間違いないだろう



困った時は相談した方がいい。これ常識（後書き）

感想、アドバイス待ってます!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2436ba/>

---

転生者のごとく！

2012年1月6日11時47分発行